

1. しがプラスチックチャレンジプロジェクト

陸域に散乱したプラスチックごみは川を通じて琵琶湖に流入しています。これを防ぐために滋賀県ではプラスチックごみを削減する取り組みとして、2023(令和5)年10月から「しがプラスチックチャレンジプロジェクト」を展開しています。このプロジェクトは、県民の皆さんに対し、ライフスタイルを見直し、プラスチック代替製品の利用、マイボトルの持参などプラスチックごみ削減に向けた実践行動のチャレンジを後押しするものです。プロジェクトでは、毎月一日の「しがプラスチックチャレンジの日」や10月の「しがプラスチックチャレンジ推進月間」を創設し、集中的な啓発を実施しています。

具体的には、プロジェクトキャラクター湖神挑こみちとともにプラスチックごみ問題について学ぶ動画やリーフレットを作成し、子どもから大人まで幅広くプラスチックごみ削減を呼びかけています。



しが
プラスチック
チャレンジ
SHIGA PLASTIC CHALLENGE PROJECT

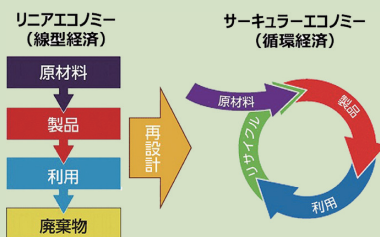


図T-1 ロゴマーク(左)
プロジェクトキャラクター 湖神挑一(右)

2. サーキュラーエコノミーへの移行

これまでの原材料から製品の製造、利用、廃棄という一方通行型のリニアエコノミー(線型経済)は、プラスチックごみの問題だけでなく、気候変動、天然資源の枯渇など様々な問題を引き起こしています。そのため、発生抑制、再使用、再生利用の3Rの取組が進められており、さらに近年は、資源の効率的・循環的な利用を図りつつ、付加価値の最大化を図るサーキュラーエコノミー(循環経済)への移行を目指すことが世界の潮流となっています。

滋賀県も「しがプラスチックチャレンジプロジェクト」や生産・流通から廃棄物の処理にいたるまでの様々な主体が連携して資源循環を促進するためのセミナーを開催するなどにより、サーキュラーエコノミーへの移行を推進しています。



図T-2 サーキュラーエコノミー
(環境省 令和3年版環境白書・
循環型社会白書・生物多様性白書より)

循環社会推進課